

トルコの書籍・書店事情 (2009年度)

三沢 伸生*

はじめに

筆者自身の体験を顧みても、この過去四半世紀においてトルコの書籍をめぐる環境変化は著しい。加えて久しく新刊書店にせよ古書店にせよトルコの書籍・書店情報について日本では公にされておらず、このままでは学界で培われてきた情報・技法の継承が危ぶまれている。そこで、ここに記す内容も瞬く間に旧いものになってしまうのは必定であるものの、大学院生・若手研究者を主たる対象として、2009年度に筆者がサバティカルでトルコに滞在している現時点でイスタンブルを中心とするトルコの書籍・書店事情の入門編を以下に総論と各論とに分けながら、まとめる次第である。

本来、プラクティカル情報としては本誌所収の先行例にならい各書店の情報だけに特化すべきかもしれないが、書籍を購入する上において、まずは書店情報以前に書籍をめぐる根本的な環境変化をきちんと認識・把握することが不可欠ではないかと愚考して二部構成とする。

総論

A. 日本における環境変化

過去四半世紀のあいだ、日本の公的研究機関におけるトルコ語(現代トルコ語、オスマン語、さらにはチャガタイ語など中央アジアのトルコ系諸言語)図書の収集は幸いなことに質・量ともに著しく進んできている。筆者が学生の頃、東洋文庫に所蔵されていれば幸運で、知己の先生方の個人蔵書を拝借する、それでも日本に招来されて無ければ自分で購入するしかなかった時代とは雲泥の差がある。現況では、主として東洋文庫・国立国会図書館関西館(アジア資料室)・東京大学(東洋文化研究所、文学部図書館ほか)・京都大学・東京外国語大学(アジア・アフリカ言語文化研究所蔵書分も含めて)・大阪大学(主に旧大阪外国語大学蔵書)・明治大学(主に永田文庫)・慶應義塾大学・東海大学・立教大学・関西大学・京都外国語大学・中近東文化センター・JETRO アジア経済研究所などが挙げられるほか、研究者の増加にともない各々の研究者の奉職先の大学図書館にも所蔵されている。加えて個々の研究者たちの個人蔵書として日本に招来されている書籍総量はかなりのものに達している。

こうした状況変化に伴い、ようやくと日本も欧米同様に大学院生・若手研究者が公的研究機関の蔵書を利用して、徒に個人購入に執着しなくても良い環境が整備されてきている。今では若い世代の間では、まずは公的研究機関におけるトルコ語蔵書の所蔵状況をきちんと把握して、次いで個人購入をするかいなかを検討することが慣例になりつつある。

周知のように東洋文庫をはじめ各研究機関の独自のホームページ上での蔵書ネット検索が可能であり、さらに大学図書館間相互貸借制度など環境整備は進んでいることも僥倖であるが、それでも検索方法に習熟していないとせっかくの蔵書を見落とすことになる(一例を挙げると、国立情報学研究所の Webcat Plus あるいは旧版 Nacsis Webcat のみで図書検索を行うと、早慶に所蔵されるトルコ語蔵書はもちろんその他の蔵書の多くが落ちてしまう)。またトルコ語図書が特殊言語として扱われることが多いことも検索作業を複雑にしている。蔵書の把握には十分に注意されたい。

* 東洋大学社会学部准教授

こうした環境の好転にあっても、日本の公的研究機関には欧米と異なり、依然として図書購入の専門職は存在しない。その意味において、大学院生・若手研究者が最新の書籍・書店事情に精通し、積極的に公的研究機関に収書希望を訴えて蔵書の充実を図っていく必要性・責務は大きい。個人蔵書は不要でも公的研究機関の蔵書の充実化作業は世代間で継承しつつ推進していくことが必要不可欠である。確かに購入予算の問題は大きいにせよ、上記の公的研究機関のように、年長世代の研究者たちの強い意志と努力とによって蔵書が飛躍的増大してきた経緯を忘れてはならない。

B. トルコにおける環境変化

① 書籍価格の高騰

1996年のEU関税同盟加入を契機に、トルコの物価水準は年々急速に高騰し、2009年現在、EU諸国同様の物価水準、すなわち日本と同等ないし日本よりも高い物価水準の物品も珍しくなくなった。書籍もその例外ではない。現在の書籍価格は新刊も古書も日本同様と心得ておくことが一つの目安である。唯一、この四半世紀で価格がほとんど変動していないのが、*Tarih-i Cevdet*などの年代記や旅行記といった一部著名なオスマン語図書である。こうした図書はもとより高価で取引されていたために値上がりすることがほとんどない。しかし一方でオスマン語図書の多くは古書市場において流通量が激減・払底している。前世紀末までは古書店店頭の均一本にオスマン語の小説などが並ぶ光景をよく目にしたものだが(古書店主がオスマン語を読めずに均一本に並べてしまうというような御伽噺みたいなことにも遭遇した)、今ではそんなことは全くありえず、そうした端本までもが古書市場で高騰してしまっている。

② 流通環境の変化

一般にトルコの図書流通は日本に比べて規模が小さい。特に学術図書では初版部数で1,000部を越えず、さらに再版されないものも珍しくない。したがって数年前出版のものであっても新刊購入が不可能で、古書として探索をせざるをえなくなるものが少なくない(そうした古書は新刊当初より値が高騰することが多い)。加えて近年は地方の大学・自治体の出版物が急増しているものの、こうした地方出版物は部数が少なく、イスタンブールやアンカラに流通する量も限定されており、入手が極めて難しい。一例を挙げれば、*Gelibolulu Ali Mustafa Efendi, Kitabü't-tarih-i künhü'l-ahbar*, 2 vols, Kayseri, 1997 (2d ed. 2006), do, *Künhü'l-Ahbâr'a göre II. Selim, III. Murad, III. Mehmed devirleri ve Âli'nin tarihçiliği*, 3 vols, Kayseri, 2000は著名なアーリーの年代記の校訂版であるが、もはや稀覯本として古書市場でも殆ど出回らない。さらには後述するネット通販方式によって、新刊・古書の流通環境は劇的に変化した。

③ 書籍形態の変化

第一の形態変化として、著作権問題に抵触する恐れが多大であるが、稀覯本入手難を補うコピー本の登場があげられる。1980年代、イスラーム世界全般にコピー機の技術進展・普及によりコピー本が市場に多数流布するようになった。トルコにおいては80年代末頃よりイスタンブールで元古書店のコピー屋 *Kubbealtı Fotokopi* がコピー本作成・販売を進めてきた。伝聞によれば、外国人研究者たちがコピー本作成依頼で持ち込む図書を余分に作成して自家保存としていたところ他の顧客からも引き合いが続き、やがて全ての図書の原稿を保存してコピー本屋へと特化し、複写・製本技術を高めていったとのことである。単純な両面コピーではなく、冊子分冊の折を作り、背を糸で縫

合した上で厚紙製本ないしは上質製本を行うという技術はトルコのみならずイスラーム世界のなかでも屈指の出来栄を誇る。現在地に至るまで3回転居し、その都度店の規模を大きくしてきた。同店の名を一躍有名にしたのは Özege 図書目録全5巻本である (M. Seyfettin ÖZEĞE, *Eski harflerle basılmış Türkçe eserler kataloğu*, 5 vols., [İstanbul, 1990]。トルコ研究者座右の文献目録でありながら市場で払底している同書は同店のコピー本として広く世界中に流布している)。同様のコピー本屋はトルコに数店あるものの、現在約6,000点の原稿在庫と完成品の出来栄により独り同店が抜きん出ている。古書店からは怨嗟の声が上がる一方、研究者からは廉価で入手難本を得られると好評を博す(事実、ISAMをはじめとするトルコ国内研究機関・大学はもとより世界中のトルコ研究者たちが愛用している)。付言すれば、同店はコピー本であれ、普通コピーであれ同一料金であり、コピー本を高値で売ることが一切しない(同店のコピー本が古本市場に流出したときに古本屋が高値をつけるのとは好対照である)。家族による小規模営業に加え顧客の多さから、注文から完成まで1週間以上の余裕は欲しい(ただし店頭の余剰ストックはその場での購入が可能)。書誌の誤記・遺漏があるものの、電子化された在庫原稿目録がある。製品の発送は一切行っていない。筆者は試したことがないので保証の限りではないが、イスタンブルに短期滞在しか出来ない場合は、事前にメールで目録送付をお願いし、訪問予定を伝えて発注することも可能ではないかと思う。

Kubbealtı Fotokopi (店主 Hanifi KAYAN, 後継者 Ahmet KAYAN)

営業時間：09:30 ～ 18:30 頃(流動的) ※礼拝時に店を閉めることあり

休業日：日曜・祝日(ただし稀に営業も。要確認)

電話・FAX：+90-212(513)3398

e-mail：kubbealtifotokopi@hotmail.com(ただし子息 Ahmet 氏宛でトルコ語のみ)

住所：Alemdar Mah. Çatalçeşme Sok. No.16, Cağaloğlu-Eminönü, 34410 İstanbul.

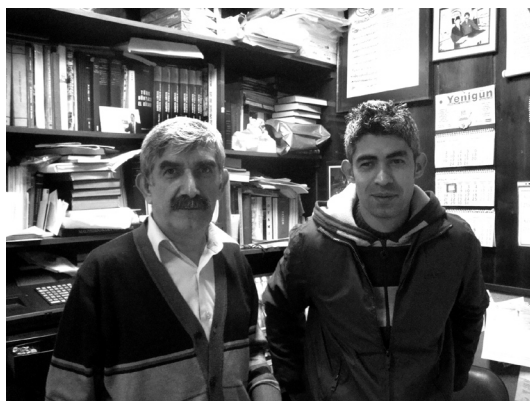
(各論で取り上げる MVT 書店そば)

海外発送委託：不可

支払い：クレジット・カード利用可



Kubbealtı Fotokopi



店主 Hanifi KAYAN 氏, 後継者 Ahmet KAYAN 氏

第二の書籍形態の変化として、デジタル化の進展があげられる。Redhouse 社などが各種辞典・事典がデジタル化形態をとりだしている一方、既存の図書・雑誌・新聞をスキャンしたものがデジタル版として流布し始めている。IRCICA による *Takvim-i Vekayi* の CD-ROM 版や ワクフ局による

Vakıflar Dergisi のCD-ROM版の販売・配布のほか、総理府古文書総局がホームページ上に文書史料出版物をPDF版でアップしている。このほかネット上では公私様々なサイトに多種多様な書籍がスキャン画像としてアップされている。また筆者の知己の範囲内だけでもトルコの複数の大学・研究者たちがCD-ROM版、DVD版ないしはネット上での公開による逐次刊行物・図書資料の復刻に意欲をみせている。加えて日本でも大きな問題となったマイクロソフト社のデジタル化推進策やgoogle社のG-Bookのような形態を含め、デジタル化事業の今後の進展には目が離せない。

④ 新刊書店の変化

世紀を跨ぐ頃より、新刊書店には様々な変化があらわれた。各店詳細は各論で述べるが、第一に小規模ながら質の高い人文科学・社会科学系の専門書店が現れ、同時に自前で出版事業に乗り出して図書や逐次刊行物を刊行したり、またホームページを開設して愛書家層の獲得に励んでいる。中にはトルコ関係の洋書に関しても十分な配慮で仕入れる書店もある(各論のPandora書店参照)。第二にD&Rに代表されるような大型チェーン店の出現である。前述のようにトルコの流通規模を考えると、この変化は大きい。ベストセラーになる一般書はもとより、学術書に至るまで現行流通過程にある新刊書籍にかんしては一昔前に比べて探索が容易になったことは福音である。第三に各種組織団体の出版部門販売書店の増加である。宗務省系のDiyaret Vakıf出版部、文化観光省出版部、Yapı ve Kredi銀行やTürkiye İş銀行などの銀行出版部門、İstanbul Büyükşehir Belediyesiなどの出版物は一般書店にも流通しているが、自前の販売書店において一通り販売されている。

⑤ 古書店の変化

東京・神保町や京都・百万遍といった日本の古書店街は若干の変動こそあるものの、数多くの店舗が長年にわたり経営を営んでいる世界でも稀有の事例である。今世紀に入ってネットの普及により有名なロンドンのチャイリングクロス地区や大英博物館地区といった古書店街がネット古書店への移行により店舗数を激減させているように世界の古書店街のあり方はいま大きく変貌している。この潮流のなかトルコにおける古書店街も短いサイクルで目まぐるしく変貌を繰り返しており、常に最新の状況を把握しておく必要がある。

イスタンブールの古書店街といえば、1990年代初頭まで旧市街バヤズィト地区のSahaflar Çarşısı(約40軒)を中心とし、新市街ガラタサライ地区のAslı Han(約20軒)、アジア側カドゥキョイ地区のAkmar Pasajı(約20軒)の3箇所、アンカラの古書店街はクズライ地区の交差点そばBirlik Pasajı(約20軒)やZafer Çarşısı地下街(約10軒)に集中していた。しかし現在はすっかり様変わりしている。バヤズィト地区Sahaflar Çarşısıでは著名な古書店の移転と閉店とによってその多くは観光客向けガイドブック・受験参考書を扱う新刊書店に取って代わられた。移転では旧くは1989年のEren書店、最近では2008年のYüksel書店の新市街移転があげられる。哲学者として敬意を集めていたAslan KAYNARDAĞ氏の高齢(その後2008年没)引退・代替わりした1957年開店の老舗Elif書店は一変して昔の面影はない。店主Tunçay İNAL氏の意向でİnal書店も撤退してネット書店(URL: <http://www.inalbooks.com/>)へと移行、古書店業界の重鎮İbrahim MANAV氏経営のDilmen書店はいまなお健在なものの、近年は仕入れの頻度も減り以前の活況ぶりが失われているのが残念である。またかつてオルドゥ通り向い側のBeyaz Sarayに集中していた宗教・思想関係書店街は、ヴェズネジレル地区のイスタンブール大学理学部西側向かいYumni İş Merkeziに移転した。ここで唯一の老舗古書店であるEnderun書店は健在であるが、後継者問題から早晩店を閉じて引退するつもりとは店

主 İsmail ÖZDOĞAN 氏の寂しい弁である。このように旧市街の古書店街はその役割を終えつつあるのが現状である。



Sahaflar Çarşısı 入口。(正面右 Dilmen 書店)



Sahaflar Çarşısı (2007 年)



Sahaflar Çarşısı 内の Saray 書店



Yumni İş Merkezi

新市街 Aslı Han は 1998 年に重鎮 Alaatin ESER 氏が没したあと、学術書を扱う良店が激減してしまった。Sahaflar Çarşısı から 1994 年にここへ移転してきた Barış 古書店の Halil BİNGÖL 氏（1966 年から古書店業に従事する業界の重鎮）が現在一人気を吐いているのみであるが同氏も販売主体をネット上に移しつつある。かつてここに店を構えていた Simurg 書店は現在地へと移転して単独書店として 90 年代に大きな成功を納めた。同様に新市街の古書店は各論で扱うようなイスティクラール通り沿いに点在する単独書店の数店のほうがはるかに品揃えが良い。

カドゥキヨイ地区の Akmar Pasajı も店舗がすっかり入れ替わり、受験参考書・教科書の書店街へと変貌してしまった（1985 年開業以来、中心的存在の Mütferrika 古書店を営んでいた Lütfi SEYMEN 氏が行く末を見守るのかのように向かいに小規模店舗を構えて続けているのが印象的である）。ここから抜け出した数店舗は Kafkas Pasajı へと拠点を移したが、ここもまた店舗の入れ替わりを繰り返し、2006 年に Lütfi 氏、2009 年に Asman 女史（ともに各論参照）、前述 Halil 氏の子息 Barış 氏と有力店が単独店経営を選択して転出し、現在、古書店街としての魅力がかなり薄れたことは否めない。また 1980 年以来、単独店として異彩を放っていた Ali Hikmet ÇEVİKÇE 氏の Dağarcık 古書店も 2009 年に店舗を閉めネット書店に移行した。加えてこの地区で 1983 年以来古書店を営んできた Sami ÖNAL 氏が 2007 年に没し、後継者ないままに店舗が閉店に至った影響も大

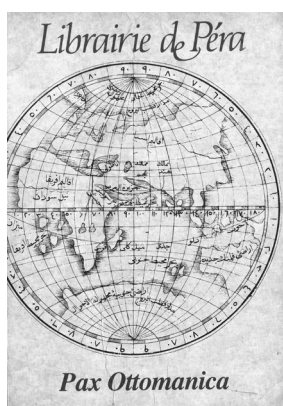
きい。この地区は現在のイスタンブールで最も古書店が集中・点在する地区であるが、それは同時に店主の力量が問われる激戦地区をも意味し、店舗の廃業閉店・新規開店・移転が甚だしい。

アンカラでは、かつてはウルス地区などにも古書店が点在していたとのことであるが残念ながら筆者は知りえていない。最も著名だったクズライ地区において Zafer Çarşısı 地下古書店街は今では消滅して、その横合いの Adil Han İş Merkezi に 20 軒ほどが集まるが、受験参考書店街に代わりつつあり、魅力ある店は一握りである。大交差点そばの Birlik Pasajı 古書店街も完全に受験参考書店街へと変貌してしまった。はじめここで開業した Sanat 書店は 2 度の移転を経て現在地へ落ち着き、主体をネット販売に移行しつつある。おしどり夫婦の経営で人気を博していた Gonca 書店も閉店となった。ここから程近いアンカラ古参の古書店であった Turhan 書店(店主 Turhan POLAT 氏)は古書を扱わない新刊書店へと衣替えしてしまった。現在、このクズライ地区を中心に市内各所に新興古書店が点在し、一部では競売なども行われたりするものの主体はネット販売となっているのが実情である。

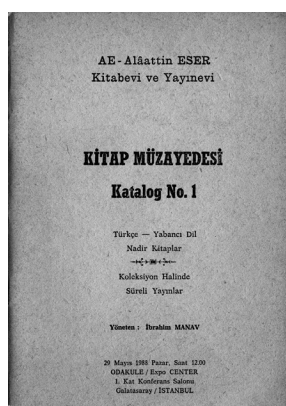
総じて古書店は、店主個人の才覚に拠るところが大きく、流通・仕入れの難しさなどの諸問題から栄枯盛衰が激しく、著名店であっても店主の高齢化・跡継ぎ不在から果ては一代で消滅ということが往々にして起こる。各店を利用しながら状況変化を把握することが求められる。

⑥ 販売方法の変化

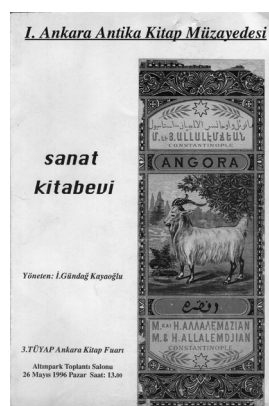
書籍の販売方法の基本は今も昔も店頭売買である。それでも様々な販売方法が模索されている。新刊書店(ないしはネット書店)はネット通販に力を入れている。一方、古書店では様々な変化が見られる。まず 1980 年代から 90 年代前半にかけて有名店による目録販売が流行った。İnal 書店と Librarié de Pera とが特に傑出し、特に後者の目録は品揃えもさることながら海外販売を意識して書影と詳細な書誌情報とを盛り込み、現在でも古書価の指標や書誌資料として重宝がられている。同様に Eren 書店、Enderun 書店、Dil-Tarih 古書店、Babil 古書店なども小規模な手製コピー古書目録を作成・配布して販売を行っていたものの、後述のようにネット販売の普及に伴い、今では目録販売方法はほとんど廃れてしまった。



Librarié de Pera 販売目録



競売目録 (Alaattin ESER)



競売目録 (Sanat 書店)

80 年代後半から競売形式もあらわれた。この形式で成功を収めたのが Librarié de Pera である。同店はオスマン語と洋書の稀覯本を品揃え、目録販売と競売形式をトルコにもたらして 80 年代後半から 90 年代にかけてトルコの古書業界を牽引した。競売は往々にして投機目的へと変貌し、豪

華本が主流となり、次いで美術・骨董品へと出品内容を大きく変動させていった。この流れのなか共同経営者の離脱も絡んで *Librarie de Péra* は競売に預いて数年前に店の規模を大幅に縮小せざるを得なくなった（常に陽気で前向きな店主 Uğur GÜRCAR 氏の捲土重来を期待するものである）。

競売形式としては現在 *İstanbul Müzayede* (URL:<http://www.istanbulmuzayede.com>) や *İSFİLA* (URL:<http://www.isfila.com>) が稀に図書を扱う（ただし両者とも市場相場を大きく越えて高騰する傾向にあり、参画は上級者でないと難しいであろう）。一方で美術・骨董品主流の競売主流に抗して、読者家を対象とする図書競売が、前述の故 Alaatin 氏を中心に Aslı Han 諸店によって先駆的に開催され、現在ではアンカラの *Sanat* 書店やイスタンブールの *Simurg* 書店などの書店に受け継がれている。こうした競売はネットを介して海外からの上限記入参加をも呼びかけている。上記書店のホームページに開催予定や出品目録がアップされる。



競売目録（左：İstanbul Müzayede 右：İSFİLA）

今世紀における最大の販売方法の変化はネット販売である。これにより書籍の販売・購入のあり方が劇的な変貌を遂げた。今のところトルコには Amazon は存在しないが、90 年代後半より、著名な新刊書店・古書店が独自のホームページを開設してネット販売の先鞭をつけ、2001 年以降、大手サイトが大規模なネット販売網を網羅することとなった。そのなかで 2006 年にある古書店主の弟が開設した *Nadirkitap* (URL: <http://www.nadirkitap.com>) という古書販売サイトが今やトルコ古本業界を主導している。当初こそ加盟店・登録書籍数が少なく、見るべきものはなかったが、徐々に加盟店の増加と利用者の増加に伴い、独自のホームページを構築していた古書店も顧客確保のために参入を余儀なくされ、急成長を遂げて今では古書販売の主流となっている。現在、古書店の多くがレジ脇で常時パソコンと向き合っている姿が日常化しているが、それは本サイト（もしくは別の幾つかの競売サイト）を開いている場合が多い。本サイトはとりわけ自力でホームページ開設・維持が出来ない小規模店主・無店舗主からは好評でもって迎え入れられ、また顧客層にとっても従来までのように複数のサイトを巡回せずに本サイトだけで事足りるようになったことが支持を集めた要因である。顧客は無料利用登録の上、購入が可能となる。海外のクレジット・カードも利用可能で、おおむね海外発送にも対応している。サイト利用手数料は書店側が支払い、顧客には書籍・送料以外に手数料は発生しない。ネット販売の最大の恩恵は、日本に居ながらしてトルコ人顧客とほぼ同等条件で古書渉猟が可能になったことであるが、加えて何より古書相場が歴然と分かることになったことも見逃せない。後述するように古書店では値をつけていない店のほうが多い（多かった）。一期一会の場合を想定し、時に煮え湯を飲まされ、稀に破格値の僥倖に遭遇し、長いこと経

験を積みながら相場を習得するのが常であった。しかし現在では古書店同士の駆け引きにより、よほどの稀覯本で無い限り、現在のトルコ古書市場における妥当な相場をいとも簡単に知る術を得たのである。さらにイズミルをはじめとする地方の古書店、あるいは無店舗店とも取引可能となり、実際に書籍を手にして検討購入が出来ないものの、従来では考えられない数多くの書店を相手に能率よく書籍購入が可能となった。残される課題は、公費購入の場合の手続きである。立替購入可能であれば、代金先払いで領収書の作成依頼・送付はほぼ可能とは思われるが（しかし領収書作成を嫌う向きも存在する）、後払い決済などは現行のシステムでは不可能である。ネット販売はトルコにおいても恒常化してきたが、この先さらなる変化を遂げていくものと思われる。



C. 購入手法

① 書店の力量

トルコで書籍を利用する場合、書店の書籍を仕入れ方法を知るとその書店の力量見極めの目安になる。新刊書店は新刊動向に目配せしながら、イスタンブール旧市街ジャールオウル地区に集中する版元にて仕入れを行う（一部版元は小売りにも対応しており、書店での品切れ本を探したり、割引で購入したい場合には有効な手段である）。各論で紹介するような大型店ならば安心であるが、規模は劣っても目の利いた仕入れを行う専門店も把握しておきたい。一方、古書店は店主の仕入れ技量が最も問われる。原則、現在のトルコの古書店では日本の古書店のように同業者間で仕入れ売買をすることがほとんどない（かつて *Sahaflar Çarşısı* では İbrahim MANAV 氏を競り手として小規模で同業者間だけの競売が行われていた）。ただしセドリ屋は現存し、店舗持たずネット販売の技術も持たない彼らは古書店をまわって中間業者として古書売買に関わる。最近では日本同様にネット・セドリ屋も多数出現し、ネット・オークション上で市場価格を無視した異常な高値がついたり、ゾッキ価格になったりと古書価が荒れる現象も見受けられる。しかしセドリ屋の規模は小さく、多くの古書店は廃品回収業者から仕入れるか、顧客からの仕入れに依存することが普通である。古書店によっては常時顧客から蔵書家・愛書家の動向に目配せをし、本人あるいは本人死後の遺族から蔵書の処分を任されて大商いをする店がある。こうした仕入れ方法を見極めるには書店に通いながら書架に注目しつつ常連となるのが結局は早道である。

② 書店での人間関係

前述のような書店の仕入れ方法から分かるように、自分にとって良い書店を見出すことは、漫然と書架ばかりを注視することではなく、書店のあり方を理解することが必要である。可能ならば足繁く通って書店主・雇用人たちと会話を持ちながら人間関係を構築することが不可欠である。新刊書店であれば顔を覚えてもらうぐらいで充分であるが、古書店であれば互いに名前で呼び合える人間関係が望ましい（外国人顧客の存在は珍しいので顔を覚えてもらうのは容易だが、日本人名を正確に記憶してもらうのは難しい。名前をきちんと呼ばれるようになれば常連として第一関門突破であろう）。古書店の常連客ともなれば、探求書の継続探索や、関連図書の取り置き、値引きなど様々な恩恵に浴する。また古書店は学術・研究機関所属の研究者はもちろんのこと市井の研究者・愛書家たちのサロンでもあり、彼らとの人間関係構築の場でもある。研究に関連して最新情報、研究者の動向、便宜供与などを受けることが可能となる。大学や文書館・図書館など各種研究機関においても同様なことは当然あるものの、古書店はその性格上そうした機関では知遇を得られない人々とも交流が発生する。ただし人間関係とはもちろん片務的ではない。彼らから我々に情報や便宜の供与が当然求められることがあることも認識しておくことが肝要である。とはいえ、まずは臆することなく、振舞われる茶を戴きつつ、店主・店員や他の顧客たちとの会話を楽しむ余裕を持ちたい。

③ 書籍情報収集

前世紀まで書籍情報、とりわけ新刊情報を日本にいながら知ることは極めて困難であった。書店から稀に送付される目録が唯一の情報源であった。しかし前述のようにネット販売のおかげで、今は各種ホームページから新刊書であれば刊行と同時に書誌情報はもちろん書影まで容易に知ること可能となった。同様に古書に関しても前述のように価格相場までもがたちどころに検索可能な状況である。また市場に出回りにくい稀覯古書にかんしても、アンカラの国立図書館を筆頭に大学・各研究機関のネット目録検索により書誌情報を得ることが可能である。もちろん日本において公刊された研究情報もかなりの蓄積を重ねており、日本語研究情報の精査・日本国内の所蔵検索・トルコの書籍流通状況把握を組み合わせれば、書籍情報収集として充分である。

また書評に関しては、*Cumhuriyet* 紙の毎木曜別冊付録として 1988 年以来刊行が続く *Kitap* ほか各種書評誌ないしは雑誌内の書評欄が存在し、またネット上でも同様の書評サイトが複数ある（匿名性のゆえ、ときに真摯辛辣な書評に遭遇する）。

④ 書籍価格

新刊書籍はもちろん定価販売であるが、各種ホームページで割引販売がある（ただし送料が別途かかるのでさほど有効な手段ではない）。また新刊書店はときに割引セールやゾッキ本・再販不可本の大幅割引を行うことがある。また前述のように一部版元の小売は割引になることが多い。また後述のようなブック・フェアを利用するのも手である。

古書に関しては難しい。原則は新刊書籍と同じく定価販売と言える。しかし世界の古書店同様に、店主が価格を決定する古書に関して定価はあってなきものである。それでも最近は前述のネット販売の影響を受けて古書店側も相場を意識して過分な割引をせず定価販売するようになってきている。店主と顧客との間の値引き交渉、常連客あるいは高額購入客に対するサービス値引きはよく見かける光景である（ただアラブ世界とは異なり、顧客が常時値引き交渉をするわけではない。店主によっては値引き交渉を忌み嫌い、一切受け付けず、関係を破綻させる場合もある）。各論に記す

ように各店において価格表示方法は異なるものの昔と異なり値段表示をする店が増えてきている。またネット販売のおかげで古書相場を把握することが容易になった現在、価格の妥当性を判断することが容易になったことは顧客にとって利点である。ただし値引き交渉は技術である反面、人間関係の反映でもある。前述のように足繁く通いながら人間関係を構築する中で店主・店員を理解し、常連客となることが値引き購入の近道に思う。また古書店によっては常連客・上客に関しては積極的に古書の取り置きを行う傾向がある。長い目で収書を行う場合、値引き交渉をしないこともまた一つの選択肢である。

⑤ 代金決済

今世紀に入ってトルコではクレジット・カードの浸透と、それに伴うカード破産が深刻な社会問題となってきている。街中でタバコ1箱、コーヒー1杯さえカードで決済する光景が日常茶飯となってきた。こうした状況の中、新刊書店・古書店でも現金はもちろんクレジット・カード決済が可能になってきている(ただし依然として一部では国内クレジット・カードのみを受け付けるところがあるので注意を要す)。クレジット・カード利用にはカードの引きおろしが1ヶ月先になるという国際的常識を充分に把握しておくことが必要である。新刊書店では問題ないが、店主個人経営の古書店の場合は注意を要する(例えば値引きを受けた後にカード決済すると人間関係を悪くする場合がある)。現金払いは歓迎されるが、一部古書店以外では外貨はまず通用しない(また外貨といっても米ドル、ユーロが原則で日本円を受け付けるところは皆無に近い)。

⑥ 書籍送付

購入した書籍を日本へ送付することも頭を悩ます問題である。第一に個人で送付する方法。郵便局の場合、5kg単位で梱包発送が可能である。ただし発送前に書籍であることの確認を求められ梱包を解くことを求められることがある。原則どこの郵便局でも受け付けるが、海外発送に抵抗の少ない大きな局が無難。またDHLやUpsなど高価だが民間国際宅急便も存在する。第二に古書店に委託する方法。一部有力古書店は購入品(人間関係や持ち込み量の度合いにより他店購入品をも受け付けてくれることあり)について、送料に梱包代などを上乗せして発送を委託することが通例である。ただし店によって梱包の度合い、発送作業の日程に違いがあるので各論を参照のこと。

⑦ ブック・フェア

新刊書籍に関しては毎年秋に、各種出版社・出版関係機関が集結してイスタンブルにおいて大規模なブック・フェアが開催される。新刊が大幅割引になるため連日大盛況となる。開催会場Tüyapがイスタンブル市西方と交通の便の悪い所であるのが難点。またラマザン月にはイスタンブルのSultan Ahmet モスク、アンカラのKocatepe モスクにおいて小規模ながらブック・フェアが開催される。また近年イスタンブル市ベイオウル地区の後援にて古書展が開催されているが、3回目のあたる2009年はタクシム広場を会場に2週間ほど、新市街を中心に市内の古書店65軒が結集して初の試みとしてタクシム広場において青空展形式が取られた。これだけの古書店が結集する様は壮観であった。好評を博しメディアにも取り上げられ、恐らくこの形式が継承されるであろう。



ブックフェア告知



Sultan Ahmet モスクでの書籍市



古書展告知



第3回ペイオウル古書展（於タクシム広場 2009/09/25-10/15）に参画した主要古書店関係者一同
[出典：ÇAĞLAR 2009]

各論

以下、主として筆者の個人的体験と評価に基づいて、いくつかの新刊書店と古書店とを紹介する。
したがって評価はあくまで筆者の独断、情報は現時点のものであることに留意されたい。

A. 新刊書店

① 全国・大型店

1) D&R 本店（ほか各地、チェーン店）1997 年開店

営業時間：09:00–20:00

休業日：無休

電話：+90-216(554)1600, FAX: +90-216(554)1610

サイト：<http://www.dr.com.tr/>

e-mail：info@dr.com.tr

住所：Altunizade Mah. Kısıklı Cad., No.47 Üsküdar, İstanbul

支払い：クレジット・カード利用可

イスタンブール市内だけでも約50店舗が展開する書籍と音響製品の一大チェーン店(利用しやすい所ではアタチュルク空港内、イスティクラール通り沿いに支店あり)。ホームページの情報量多く、現代トルコ語の新刊書籍に関して、購入はもちろん書誌情報を得るにも大いに役立つ。

またD&R以外にも同様に書籍・音響、書籍・文房具の全国展開チェーン店が複数存在する。



D&R 本店

② イスタンブール・大型書店

1) Alkim 書店 (カドゥキョイ本店 ※ベシクタシュにも支店あり)

営業時間：09:00-22:00 (日曜は 11:00 開店)

休業日：無休

電話：+90-216(450)2008

サイト：2009 年現在未開設

e-mail：alkimkart@alkim.com.tr.

住所：Damga Sok. No.23-25, Kadıköy, 34710 İstanbul

支払い：クレジット・カード利用可

トルコを代表する大型書店および出版社。2005 年に現在地に移転した際は、東京八重洲ブックセンターのように、地上4階地下2階のトルコ最大規模新刊書店と銘打っていたが、2009 年現在、建物は残っているものの地上2階部分に規模が縮小となった。品揃えは良い。常時B本廉価販売を行うほか、ときに一律25%オフのようなセールを行う。



Alkim 書店本店

2) Kabalcı 書店

営業時間：09:00-19:00

休業日：無休

電話：+90-212(522)6305

サイト：<http://www.kabalcı.com.tr>

e-mail：danisma@kabalcı.com.tr ほか

住所：Ankara Cad. No.47 Cağaloğlu, İstanbul

支払い：クレジット・カード利用可

トルコを代表する出版社および大型書店。上記ほかベシクタシュ地区、バクルキョイ地区などに支店がある。出版社として年代記や



Kabalcı 書店

叙述史料の校訂出版を行う。

③ イスタンブル・専門書店

1) Pandora 書店

営業時間：09:00-19:00

休業日：無休

電話：+90-212(230)0962, FAX：+90-212(219)4292

サイト：<http://www.pandora.com.tr/>

e-mail：satis@pandora.com.tr, musterihizmetleri@pandora.com.tr

住所：Perihan Sok, No.68/2, Beyoğlu, 34381 İstanbul

支払い：クレジット・カード利用可

専門店として支持を集める。大型店とは異なり、学術専門書の目利き仕入れに定評を有する。特筆すべきはトルコ関係の洋書が極めて充実していることである。蔵書量が増えたことにより2008年に通り向かいに洋書部門店を別に開設したほどである。日本ではAmazonなどで洋書のネット購入が容易になったものの現物を確認できるという点でこうした書店は有難い。また新刊書店としてはやくからホームページを開設し、ネット販売の草分け的存在でもある（ネット上では一部古書や割引本なども扱う）。



Pandora 書店本店



Pandora 書店洋書部



Robins Crusoe 389 書店

2) Robins Crusoe 389 書店（1994年開店）※389は2008年の地番変更以前の番地

営業時間：09:00-19:00

休業日：無休

電話：+90-212(293)6968 FAX：+90-212(251)1735

サイト：http://www.rob389.com/default.asp?PAG00_CODE=MAIN_PAGE

e-mail：seda@rob389.com

住所：İstiklal Cad. No.195/A, Beyoğlu, 34433 İstanbul

支払い：クレジット・カード利用可

上記 Pandora 書店に比せば規模はずっと劣るものの、トルコ関係の洋書の仕入れが優れている。ホームページの新刊情報也大いに役立つ。

3) Simurg 書店（店主 İbrahim YILMAZ, Coşkun YILMAZ）

営業時間：09:00-20:00

休業日：原則無休（不定期休）

電話：店舗 +90-212(292)2712 事務所 +90-212(244)8290 FAX：+90-212(292)2713

サイト：<http://www.simurg.com.tr/>

e-mail：sahaf@simueg.com.tr

住所：（店舗）Hasnun Galip Sok. No.4/B. Beyoğlu, 34433 İstanbul

（古書部）İstiklal Cad. No.148, Karsan Çıkmaşı Sok. No.2/B, Beyoğlu, 34433 İstanbul

海外発送委託：可能（但し注意を要す）

支払い：クレジット・カード利用可

元は Aslan Pasajı 内の古書店だったものが 90 年代半ばに現在地に移転。4 兄弟中次男を除いて長兄 İbrahim 氏を中心にした店舗経営が展開され、店舗は三男 Coşkun 氏が束ねる。新刊・古書ともに扱うが、現在では店舗は新刊のみで、2009 年に新設された支店が文学など一部古書を扱うものの、オスマン語など高価な古書は事務所兼倉庫に保管されネット上での販売が原則（その質・量ともに充実しておりホームページに注目する必要がある）。また登録すれば定期的に新刊情報をメールで配信して貰える。90 年代、新刊本の品揃え数と値引き販売で一時期書店として大いに成功し、店舗は国内外の愛書家たちのサロンと化し、ノーベル賞作家 Orhan PAMUK も自著でお気に入りの場所と賛するほどであった。Meninski の辞書の復刻など出版業にも乗り出しもしたが、今世紀になって一時期経営難に陥り、日本を含め外国の研究機関・研究者に対して購入済図書発送上で問題を起こしてから外国人顧客が減少してしまったのが大いに残念である。筆者も今も愛用してはいるものの、以来発送の委託は手控えている。



Simurg 書店



新刊部門担当 Coşkun YILMAZ 氏

4) Diyanet Vakıf 出版部（イスタンブール第一支店）

営業時間：08:30-19:30

休業日：日曜・祝日（※礼拝時に閉店する。上階にモスクが存在）

電話：+90-212(518)4604-11, FAX：+90-212(518)8307

サイト：<http://www.diyantevakfiyayin.com.tr/>

e-mail：bilgi@diyanetvakfiyayin.com.tr

住所：Klodfarer Cad. No.14/1, Sultanahmet-Eminönü, İstanbul

海外発送委託：可能

支払い：クレジット・カード利用可

宗務省系の出版部。新版イスラーム百科をはじめ自前の出版物ほか一般新刊書も取扱う。宗教・思想系に強いほか、TDK や TTK の出版物も比較的揃っている。大型本以外は原則出版社別の陳列となっている。アンカラのクズライ地区（市モニュメント像の傍）ほか国内各地に店舗を構える。



Diyanet Vakıf 出版部（イスタンブル第一支店）

④ アンカラ・専門書店

1) Turhan 書店（店主 Turan POLAT）

営業時間：11:00–19:30

休業日：日曜・祝日

電話：+90-312(418)8259, FAX：+90-312(418)7591

サイト：<http://www.turhankitabevi.com.tr/>

e-mail：satisdestek@turhankitabevi.com.tr, turhanpolat@hotmail.com

住所：Yüksel Cad.No.8/32, Kızılay 06650, Ankara

支払い：クレジット・カード利用可

元はアンカラ有数の古書店。新刊書店へと移行し、古書は極わずかにネット販売するのみ。アンカラや地方出版の人文科学関係の新刊書の仕入れに優れ、イスタンブルでは見受けられないものが入手可能なことがある。



Turhan 書店

2) İmge 書店

営業時間：10:00-20:00

休業日：無休

電話：+90-312(419)9310, FAX：+90-312(425)6532

サイト：<http://www.imge.com.tr/>

e-mail：imge@imge.com.tr

住所：Konur Sok.No.17, Kızılay 06650, Ankara

支払い：クレジット・カード利用可

アンカラを代表する新刊書店および人文科学系の出版社。イスタンブル・カドゥキョイ地区に支店あり。



İmge 書店

3) Dost 書店

営業時間：09:15-19:30 (日曜 12:00-19:00)

休業日：無休

電話：+90-312(435)9370, FAX：+90-312(435)7902

サイト：<http://www.dostyayinevi.com>

e-mail：bilgi@dostyayinevi.com

住所：Meşrutiyet Cad.No.37/4, Yenişehir 06420, Ankara

支払い：クレジット・カード利用可

アンカラを代表する新刊書店および人文科学系の出版社。



Dost 書店

B. 古書店

① イスタンブル・旧市街

1) MVT 書店（店主 M.Vecihi TERZİ）2008 年開店

営業時間：10:00–19:00（※流動的）

休業日：日曜・祝日

電話：+90-212(512)0580, FAX：+90-212(512)7339

サイト：<http://www.sahafium.com>

e-mail：bilgi@sahafium.com.

住所：Alemdar Mah. Çatalçeşme Sok. No.28/A, Cağaloğlu-Eminönü, 34410 İstanbul

海外発送委託：可能

支払い：クレジット・カード利用可

在庫数：普通

値段：記入（値札シール貼付）

長らく Dilmen 書店で修行を積み、2003 年独立後に Sahaflar Çarşısı で店を構えていたが、2007 年末に現在地へ移転、2008 年初より開業。同氏の移転も Sahaflar Çarşısı の衰退を象徴する。店頭は新刊書が中心だが、入手難書・地方出版物・品切書など他店では見かけない良書を数多く常置しているのは同氏の仕入れの技能を物語る。古書はネット販売中心であり、本稿執筆時に İzzi のミュテフェリカ版年代記が売りに出ているなど、その質・量ともに特筆に値する。ホームページの新刊情報も有難い。海外発送には十分な梱包を施し、問合わせにも真摯に対応してくれる。



MVT 書店



店主 M.Vecihi TERZİ 氏

② イスタンブル・新市街

1) Turkuaz 古書店（共同経営店主 Emin Nedret İŞLİ, Puzant AKBAŞ）2001 年開店

営業時間：09:30 頃～ 18:30 頃

休業日：日曜・祝日

電話：+90-212(245)4588 +90-212(292)1067, FAX：+90-212(245)4584

サイト：<http://www.sahaf-turkuaz.com/english/default.asp> [nadirkitap にも出店]

e-mail：bilgi@sahaf-turkuaz.com

住所: Emir Nevruz Sok., Panayia Apt. No.12/D, Beyoğlu, 34450 İstanbul

海外発送委託: 可能

支払い: クレジット・カード利用可

在庫数: 極めて多い

値段: 原則記入。未記入は店主判断。

トルコで数少ない Antiquarian 級の古書店として在庫図書の質・量ともに特筆に価する。特にオスマン語図書では他店追随を許さない在庫を誇る。故に稀覯書の相場はこの店が基準となることが多い。価格は総じて高いものの、後に記すような事務処理など付加価値を考慮すれば十分に満足いくものと筆者は個人的に考える。2名の経営者は元々 90 年代に名を馳せた古書店 Librarie de Péra 出身。Nedret 氏は若き日に Enderun 書店に奉公した経験を有し、現在の古書業界にあってオスマン語図書の知識・読解において筆頭格である。しばしば各種メディアに登場してその博識はつとに有名である。Puzant 氏はアルメニア人としてアルメニア語図書への造詣が深いほか、様々な洋古書に詳しい。店舗のある建物上階に事務所兼倉庫があり、蔵書はほとんどが PC 登録管理されている。また店主の子息をはじめ世代の異なる店員を雇用して次世代養成を並行して進めており、前述のような店主の逝去や引退により一代で古書店が終焉するという旧弊に予防線を張っている。特筆すべきは見事な事務処理であり、発送は委託すれば即日数日以内で行い、公費購入にかかわる書類も PC で迅速・美麗に作成する。事務所は夕刻ともなれば、大学教員・研究者・愛書家といった顧客たちのサロンと化して賑やかなことこの上ない。



Turkuaz 古書店



店主 Nedret 氏と Puzant 氏

2) Eren 書店 (店主 Muhittin EREN)

営業時間: 09:00-19:00

休業日: 日曜・祝日

電話: +90-212(251)2858, (252)0560 FAX: +90-212(243)3016

サイト: <http://www.eren.com.tr/>

e-mail: bilgi@eren.com.tr

住所: İstiklal Cad. Sofyalı Sok., No.34, Beyoğlu, 34433 İstanbul

海外発送委託: 可能

支払い: クレジット・カード利用可

在庫数: 普通



Eren 書店

値段：記入・未記入混在。未記入は店主判断

(以上、伝聞情報、筆者未確認)。

店主は異業種から転進し、新刊・古書双方を扱いながら出版業も手がける。トルコに帰国したイナルジクに接近し、その著書出版で注目を集めた。しかし最近では出版点数が著しく減少している。書店としては新刊中心。古書に関しては仕入れ頻度は低く蔵書の質・量は普通程度だが、価格は相場からみて高い。付言すれば筆者は本店を語るには不適任である。筆者は留学当初に店主に手酷い仕打ちを受けて一切取引をしておらず今後もすることはない。ただ筆者同様に学生時代に同店からぞんざいな扱いを受けて不快感を抱く知己のトルコ人研究者も複数おり、同業者たちから距離をとられ、他店のように顧客たちのサロンとなりえていないのも至極当然かと思う。

3) Denizler 書店 (店主 Turgay EROL)

営業時間：10:00-19:00 (※流動的)

休業日：無休 (※流動的)

電話：+90-212-249 88 93

サイト：<http://www.denizlerkitabevi.com/vitrin/>

e-mail：info@denizlerkitabevi.com

住所：İstiklal Cad. No.199/A, Beyoğlu 34433, İstanbul

海外発送委託：可能 支払い：クレジットカード利用可

在庫数：普通

値段：記入・未記入混在。未記入は店主判断。

店名が示すように元来は海洋関係の出版社兼古書店として開店。

イスティクラール通りに面する店舗から外国人観光客向けに洋書の新刊・古書販売で実績をあげ、毎日曜日の店舗階上で開催する絵葉書・紙史料中心の競売を通して仕入先・顧客を増やしオスマン語 (ミュテフェツリカ版を仕入れて話題を撒いたことも)・現代トルコ語古書も一部扱いだすまでになった。競売は古書相場より高値になる傾向が強く、初心者向きではない。階下の洋古書に稀に出物がある。



Denizler 書店

③ イスタンブル・アジア側

1) Babil 古書店 (店主 Lütfi BAYER) 1997 年開店

営業時間：11:00 頃～ 19:00 頃 (※日中は留守が多く、礼拝時も閉店)

休業日：日曜・祝日 (稀に営業することもある)

電話：+90-216(418)9259

サイト：なし (Nadirkıtap 利用) ※基本 PC 技術に疎い

e-mail：lutfibayar@e-kolay.net

住所：Ressam Şeref Akdik Sok. No.38, Moda-Kadıköy, 34710 İstanbul

海外発送委託：原則不可

支払い：現金取引のみ

在庫数：かなり多い

値段：未記入・店主判断 (Nadirkıtap のものはネット価格どおり)

Antiquarian 級ではないが、在庫の質・量(含むオスマン語・洋書)ともに現在のイスタンブルで第一級の古書店である。1989～97年 Akmar Pasajı で大学時代の友人 Cumhuriyet 氏、Bahtiyar 氏と3人で古書店経営に乗り出し、共同経営を解消してから短期間単独店を開き、1997年に Kafkas Pasajı に移転。2006年に店舗規模拡張のために単独店へと回帰して現在地へ移転(さらに広い店舗を模索中とのこと)。この店は頻繁に大量の仕入れを行う。日中留守がちで無駄足を踏むことも多々である(夕刻来店が望ましい)が、それは独自のルートで店主が市内各地に仕入れに赴くための不在である。仕入れの技は現在の古書業界で筆頭格であろう。仕入れたばかりの古書はすぐにネットにあがらず店頭売買とされる。筆者も何度となく稀覯本を入手させて貰っている。価格は概して相場から大きく外れることはないが、ときに高価である。旧き伝統に則り図書に価格未記入である。購入は顧客の書誌知識・選書眼・相場把握度が問われる真剣勝負となる。店主は極めて陽気な社交家で、目録・競売など様々な企画を次々に立案するカドキョイ地区古書業界の若きリーダー。



Babil 古書店



店主 Lütfi BAYER 氏

2) Nigar 古書店(店主 Asman BEKTAŞ) 1994 年開店

営業時間: 11:00 頃～19:00 頃(不規則)

休業日: 日曜・祝日

電話: +90-216(345)1079, 216(338)4744

サイト: 独自サイト閉鎖中(現在は Nadirkitap 利用)

e-mail: asumanb@gmail.com

住所: Dr.Esat Işık Cad. No.18/A, Moda-Kadıköy, 34710 İstanbul.

海外発送委託: 原則不可

支払い: 現金取引のみ

在庫数: 多い

値段: 記入(Nadirkitap 記載価格)

1994年に Kafkas Pasajı において開業、Akmar Pasajı の衰退とそれに代わる Kafkas Pasajı の繁栄を良く知る。2009年に故 Sami 氏の Dil-Tarih 書店物件へ移転して単独店となる。Nadirkitap 草創期から参入し、基本全ての在庫は Nadirkitap に登録されている。オスマン語図書・雑誌も扱い、人文系を中心とした品揃。前述の Babil 古書店と比べると見劣りはするものの、イスタンブル全体からみれば良古書店であることは間違いない。



Nigar 古書店



店主 Asman BEKTAŞ 氏

3) İmge 古書店（共同経営店主 Haluk CEYLANDAĞ, Babur ÖDEN）1998 年開店

営業時間：09:30 頃～ 18:30 頃

休業日：無休

電話 & FAX：+90-216(414)2762

サイト：<http://www.imgesahaf.com/> [nadirkitap にも出店]

e-mail：info@imgesahaf.com

住所：Caferağa Mahallesi, Güneşlibahçe Sok. No.41/A, Kadıköy, 34710 İstanbul

海外発送委託：可能

支払い：クレジット・カード利用可

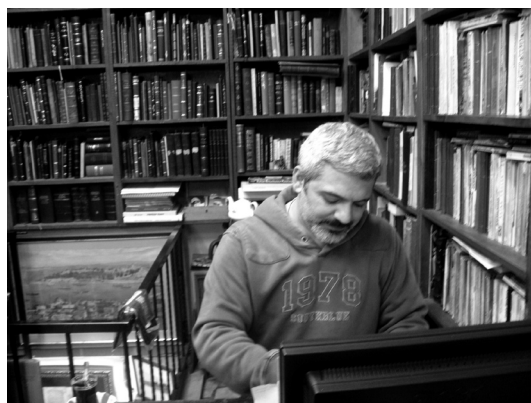
在庫数：多い

値段：K 記号記入方式。総じて相場よりかなり高い。

同名のアンカラの出版社・新刊書店とは無関係。Nadirkitap が開設される前より独自のホームページでネット販売を積極的に展開し成功した店。まだインフレ進行が激しい時に K 記号方式という独自の価格記入方法を編み出したと言われる。現代トルコ語図書が主流であるが、オスマン語図書・雑誌にも一定量の在庫を有する。ただし価格設定は強気で相場に比べてかなり高く、購入に際してはかなりの注意と覚悟を要す。店頭均一本や現代トルコ語雑誌は安く、ときに掘り出し物も。



İmge 古書店



共同経営の一人 Babur ÖDEN 氏

④ アンカラ

1) Sanat 書店（店主 Ahmet YÜKSEL）

営業時間：09:30 頃～ 18:30 頃

休業日：日曜・祝日

電話：+90-312(425)9376 FAX：+90-312(425)9377

サイト：<http://www.sanakitabevi.com.tr> [nadirkitap にも出店]

e-mail：sanat@sanakitabevi.com.tr

住所：Esat Cad., Hacıyolu Sok. 3/A (Akay Yokuşu Kavşağı), Küçükcesat, 06640 Ankara

海外発送委託：可能

支払い：クレジット・カード利用可

在庫数：かなり多い

値段：原則記入。未記入でも全て PC 登録管理なので瞬時判明。

アンカラのみならずトルコを代表する古書店。蔵書の質・量ともに一級品。はやくから独自のホームページを立ち上げ、頻繁に更新し新刊情報を提示してくれるため重宝である。また蔵書を一括して PC 登録管理を実施している。既にアンカラでは古書街という言葉は有名無実化しているのが現状で、現在地に移転して単独でネット販売を中心に営業するという姿勢はトルコの古書店の未来像を先取りしているのかもしれない。



店主 Ahmet YÜKSEL 氏



Sanat 書店

おわりに

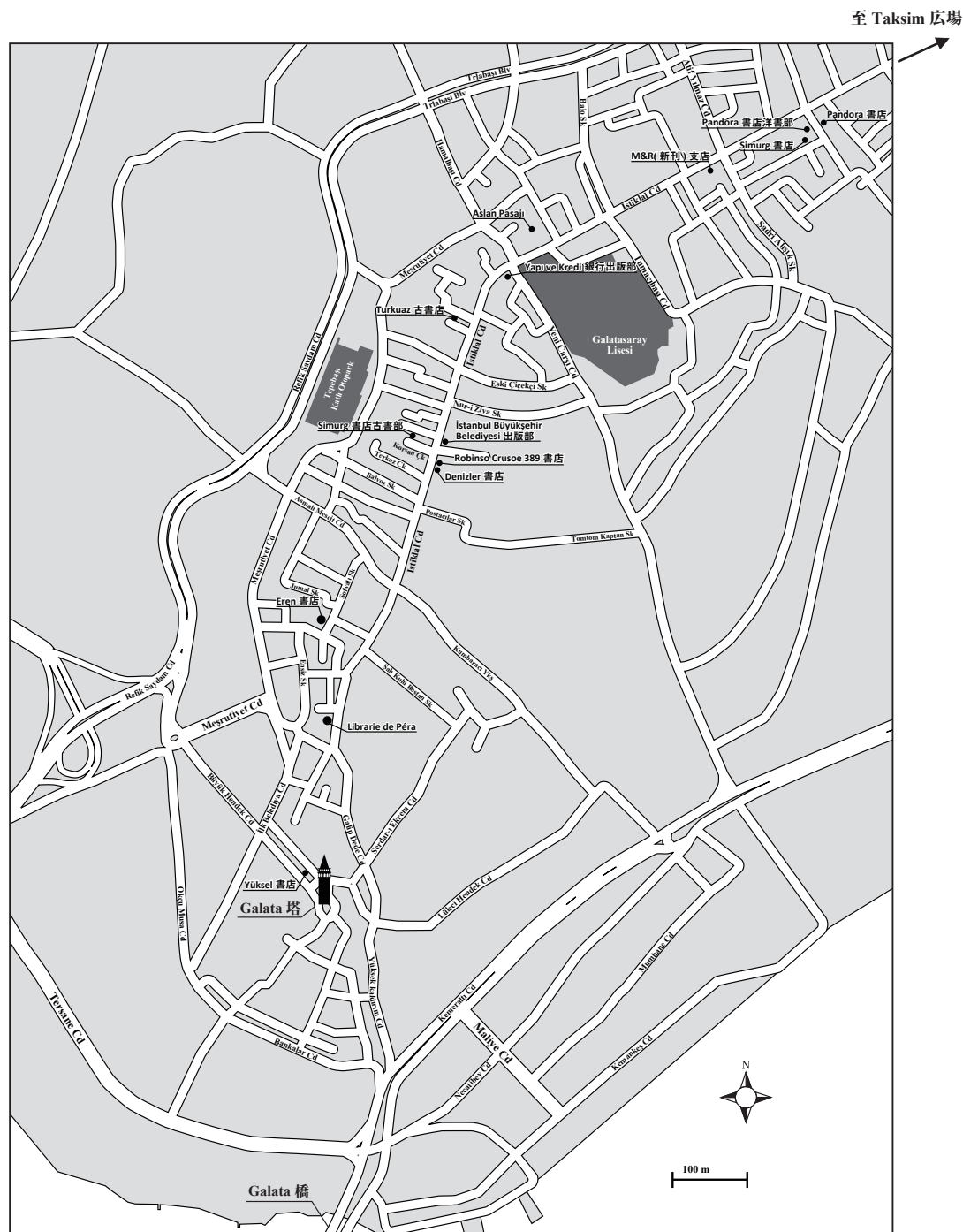
上述のように、最近トルコでは新刊書がすぐに払底し、古書もかつてほど市場に出回らないと言われる。それでも書籍・書店状況をきちんと認識して収書を進めれば道は必ず開けるものとする（京都大学大学院アジアアフリカ地域研究研究科および東長靖研究室における極めて充実したオスマン語・現代トルコ語蔵書が今世紀以降の収書であることが良い証左である）。

新刊書店に関しては一部専門店を除いて情報はほぼ記したものの、古書店に関してははじめに述べたように入門編レベルにとどまる。日本でもそうであるように古書の世界は繊細で奥深く、また魍魎魍魎の跋扈するところでもある（とりわけ本稿でも取り上げた競売は極めて難しい）。そのため上級編を公にすることは難しく、また憚れることも多い。まずは上記を手がかりとして古書店を利用し始めたうえで、他の店や購入技法などについては、筆者を含め年長世代に直接尋ねられたい。

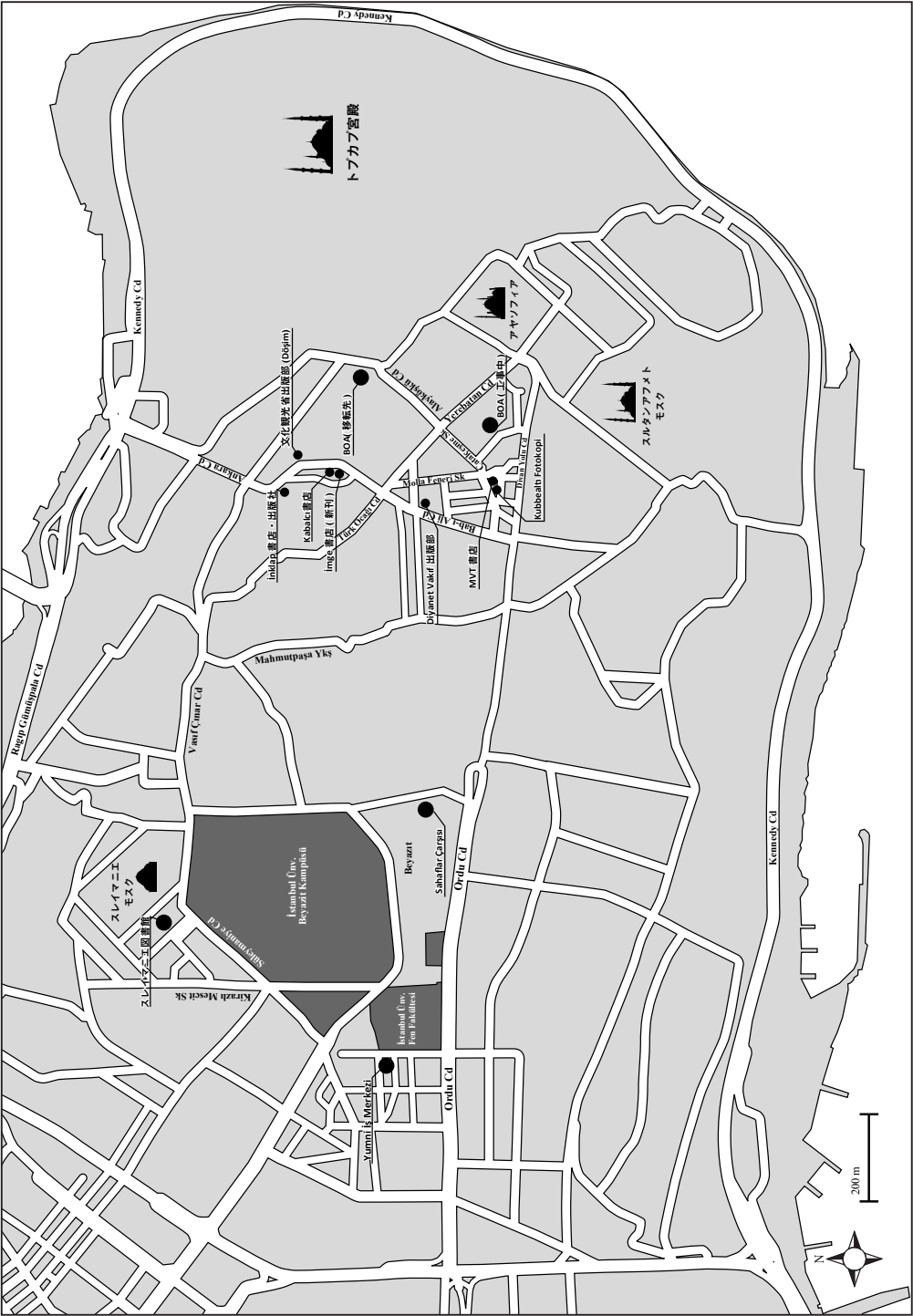
参考文献

- ACUN, Niyazi. 1936. “Sahaflar Çarşısında,” *Resimli Ay* 9, pp. 7–13.
- ADLI, Ayşe. 2009. “Babiali Beyoğlu’nda hayat buluyor,” *Aksiyon* 760, pp. 58–59.
- AKBULUT, İlhan. 1991a. “İstanbul’da bir Kültür Sergeni Sahaflar Çarşısı,” *Kültür ve Sanat* III/11, pp. 64–7, 92–3.
- . 1991b. “Sahaflar Çarşısı,” *Antik Dekor* 1991/12, pp. 98–100.
- ASLAN, Sema. 2009. *Benim Kitaplarım*. İstanbul : Doğan Kitap.
- BARLAS, Uğuroğlu. 1994a. “Sahaflarda 45 Yıl : İbrahim Manav,” *Müteferrika* 2, pp. 145–50.
- . 1994b. “Sahaflar Çarşısı’nda Geçen Günler,” *Müteferrika* 3, pp. 63–72.
- BAYSUN, Cevat. 1959. “Eski Sahaflar Çarşısı’nda,” *Bilgi* 145.
- BİNARK, İsmet. 1967. “Eski Devrin Kitapçıları : Sahaflar,” *Türk Kütüphaneciler Derneği Bülteni* XVI-3, pp. 155–162.
- ÇAĞLAR, Yusuf. 2009a. “Beyoğlu Sahaf Festivali’ne siz de davetlisiniz !,” *Gezgin* 32, pp. 84–91.
- . 2009b. “2010’da Taksim Gezi Parkı’nda Sahaflar Çarşı Kurabiliriz,” *Türk Edebiyatı* 433, pp. 4–9.
- EBCİOĞLU, H.M. 1978. “Günümüzde Sahaflar Çarşısı,” *Tarih ve Edebiyat Mecmuası* 10.
- GÜNAY, Mustafa. 2006. *Arslan Kaynardağ’a Armağan*. İzmir: İlyas.
- İŞLİ, Emin Nedet. 1994. “Sahaflara dair I,” *Müteferrika* 2, pp. 173–7.
- KARAKIŞLA, Yavuz Selim. 1999. “Sahaf Dil-Tarih : Sami Önal,” *Kitap Kokusu* I/1, pp. 90–109.
- KAYNARDAĞ, Arslan. 1992. “Eski Esnafımızla,” *İstanbul Üniversitesi Edebiyat Fakültesi Kütüphanecilik Dergisi* 3, pp. 67–72.
- KÜRKCÜOĞLU, Feza. 2000. “Hayal Sahaf,” *Virgül* 35, pp. 52–6.
- ÖNAL, Sami. 2000. “Ankara Kitapçılığı Tarihi üzerine derkenar,” *Kebikeç* 10, pp. 11–14.
- ÖZCAM, Nanyire. 1981. “İlmin Kalbi Burada Atıyor,” *Hayat* 1182, pp. 37–9; 1183, pp. 37–9.
- ÖZCAN, Ahmet. 2002. “Ankara Sahaflarına dair bir Şerh,” *Kebikeç* 14, pp. 51–60.
- TÜRKMENOĞLU, Turan M. 2000. “Sahaflar Çarşısı’nın Seyir Defteri,” *Kitap Kokusu* 2&3, pp. 376–406.
- ÜLKTAŞIR, M.Şakir. 1974. “Türklerde Kitap, Kütüphane ve Sahaflık üzerine Küçük bir Araştırma,” *Türk Kültürü* XII/135, pp. 17–23.
- YESARI, Arif. 1993. “Sahaflar Çarşısı,” *Müteferrika* 1, pp. 123–6.
- YILMAZ, Ömer Faruk. 2005. *Tarih Boyunca Sahhaflık ve İstanbul Sahhaf Çarşısı*. İstanbul : Sahhaf Derneği.
- YÜKSEL, Ahmet. 2001. “Ankara Kitapçılık Tarihi Notlar II,” *Kebikeç* 11, pp. 17–35.
- 小松久男 1987 「イスタンブールの古本屋点描」『トルコ文化研究』2, 18–19 頁.
- 三沢伸生・今松泰 1996 「日本の研究機関におけるトルコ諸語資料の収集状況」『アジア資料通報』34(6), 1–9 頁。

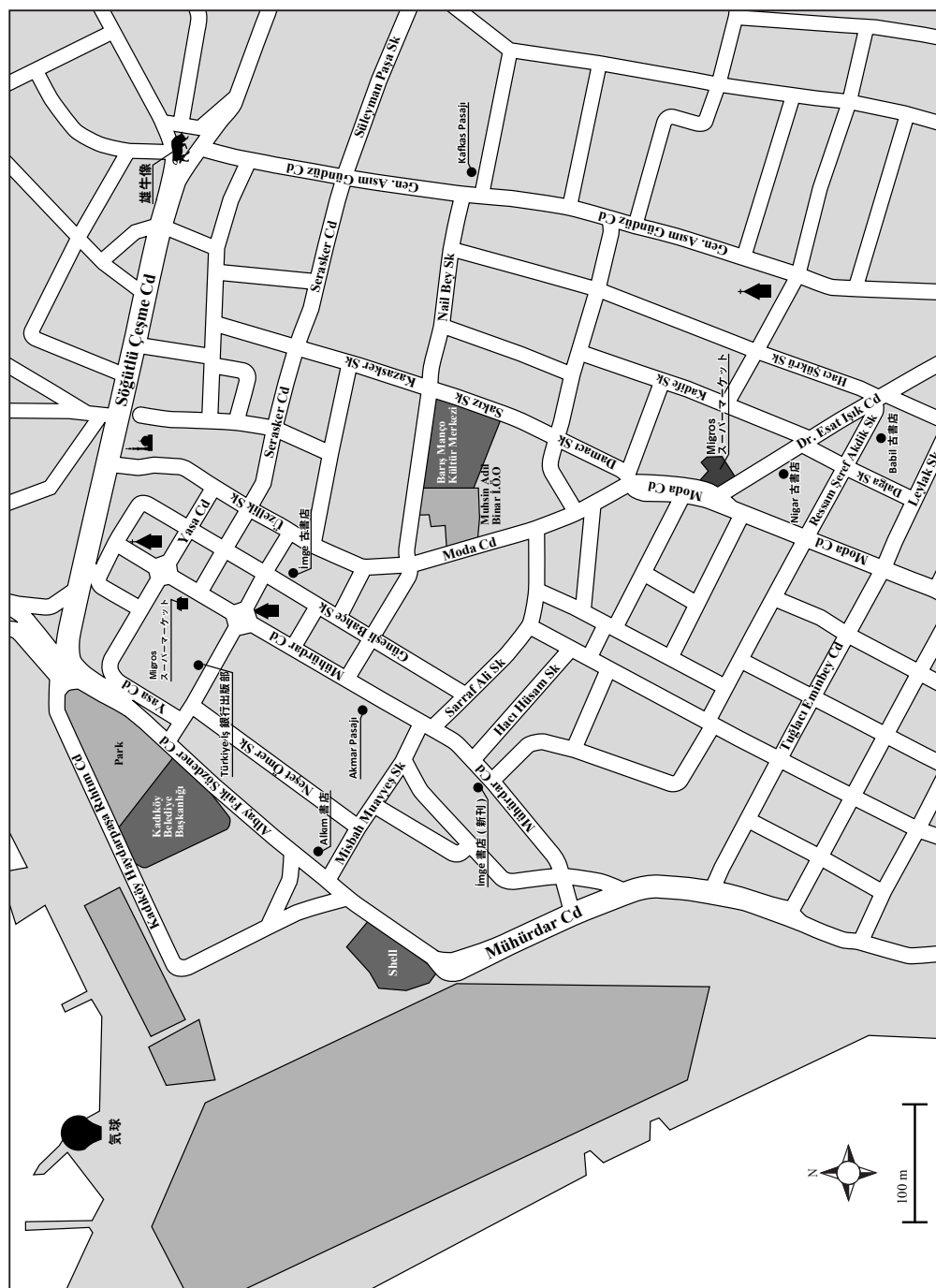
地図1: イスタンブール新市街



地図2：イスタンブール旧市街



地図3:イスタンブル・アジア側(カドゥキョイ地区)



地図 4：アンカラ

